

## 岩手県内陶磁器製造業現状調査

酒井 晃 二\*、吉田 敏 裕\*、橋 秀 一\*

### The Investigation about Porcelain Factories in IWATE Prefecture

SAKAI Koji\*, YOSHIDA Toshihiro\*, TACHIBANA Shuichi\*

This report revealed the actual condition of porcelain factories and studios in Iwate prefecture. There are 40 porcelain factories and studios in Iwate. 89% of those porcelainers consist of the 30 to 59 age bracket. And 90% of those factories are private enterprises. More than 60% of raw porcelain materials have been imported from other prefectures noted by porcelain, for instance Shigaraki(Shiga pref.), Mashiko(Tochigi pref.), Seto(Aichi pref.) and so on.

Keyword : Porcelain Questionnaire Iwate

#### 1. 調査概要

##### 1-1 調査の目的

岩手県の陶磁器業界には、文化5年創業の小久慈焼、明治28年創業の台焼など歴史に裏付けされた郷土の名品を造り続けているところもあるが、近年では小規模ながら数多くの窯元が開窯し多彩な創作活動を行っている。ところが、県内における陶磁器製造企業の実態は正確には把握されておらず、情報を得るには一部の団体による集計に頼らざるをえなかった。そこで、当所は「県産資源の利用化事業」の下に、本年は県内窯業業界とりわけ陶磁器製造企業の現状を把握し、技術支援および技術開発の資料とするため各事業所に対してアンケート調査を行った。

##### 1-2 調査方法

###### (1) 調査対象

「日本標準産業分類」<sup>1)</sup>において分類番号254に相当するものうち岩手県内で陶磁器製品の製造を行っている製造所、企業数40社（平成5年工業統計調査結果<sup>2)</sup>）に該当しないものも含む。

###### (3) 調査方法

郵送配布、郵送回収。

###### (3) 回収結果

回収数 35（回収率88%）

#### 1-3 調査内容

- (1) 陶磁器製造企業について
- (2) 使用原料について
- (3) 岩手県工業技術センターに対する要望

#### 2. 調査結果

##### (1) 陶磁器製造企業について

###### ① 代表者の年齢構成（回答数35：回答率 100%）

30代…10人（29%）	60代… 1人（ 3%）
40代…13人（37%）	70代… 2人（ 6%）
50代… 8人（23%）	80代… 1人（ 3%）

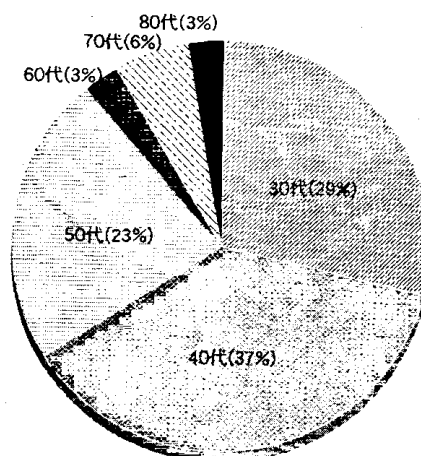


図1-1 年齢構成

② 開業年 (回答数35; 回答率 100%)

昭和40年代	…	6 (17%)
昭和50年代	…	14 (40%)
昭和60年代	…	8 (23%)
平成	…	5 (14%)
その他	…	21 (6%)

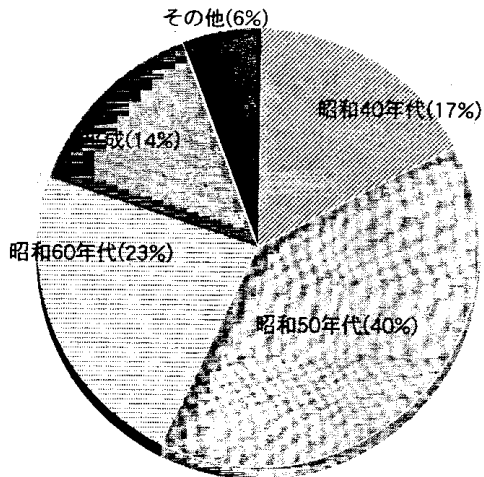


図1-2 開業年

③ 企業形態 (回答数35; 回答率 100%)

個人	31 (89%)
有限会社	1 (3%)
組合	1 (3%)
株式会社	1 (3%)
町営	1 (3%)

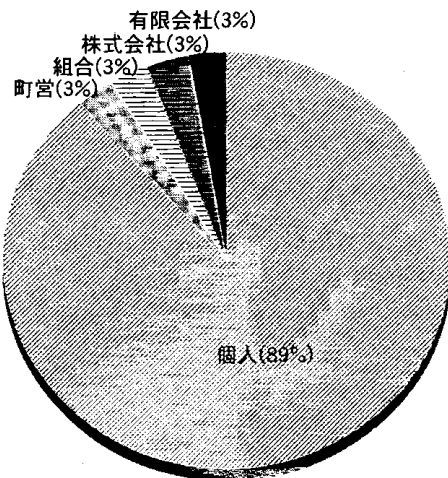


図1-3 企業形態

④ 従業員数およびその構成 (回答数35; 100%)

1人	20 (58%)
2人	11 (30%)
3~10人	3 (9%)
10人以上	1 (1%)

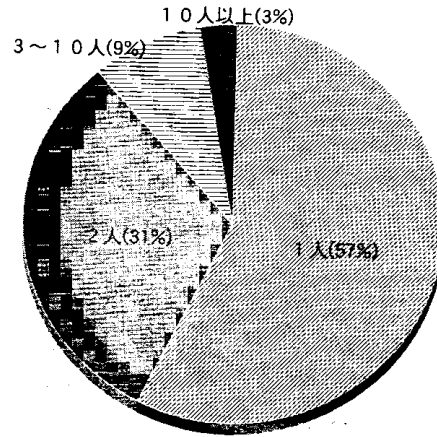


図1-4 従業員数

⑤ 陶芸教室 (回答数35; 回答率 100%)

行っていない	19 (54%)
定期的に行っている	19 (46%)

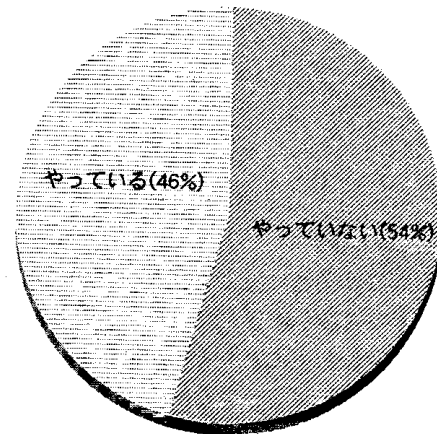


図1-5 陶芸教室

⑥ 団体への所属 (回答数35; 100%)

所属	18 (55%)
非所属	16 (42%)
不明	1 (3%)

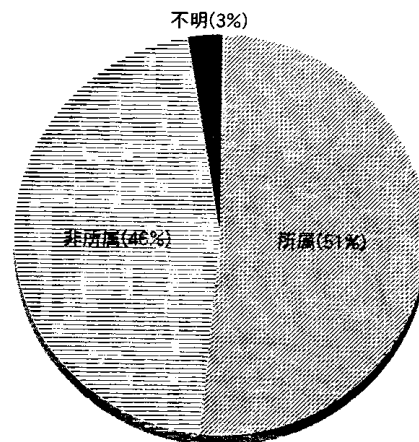


図1-6 団体への所属

⑦ 修行・研修地 (回答数56; 複数回答)

愛知県	12 (21%)
栃木県	8 (14%)
岩手県	7 (13%)
佐賀県	4 (7%)
岡山県	3 (5%)
岐阜県	2 (4%)
京都府	2 (4%)
独学	7 (13%)
その他	11 (20%)

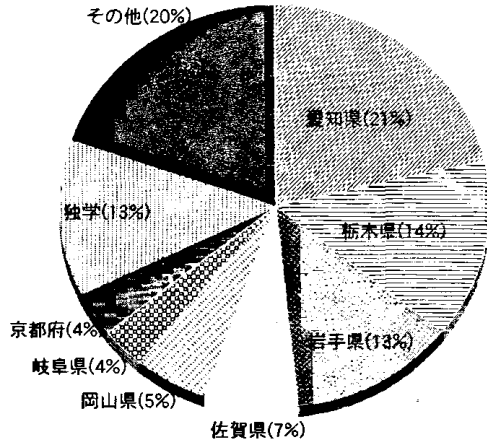


図1-7 修行・研修地

② 原料土の年間使用料 (回答数26; 回答率74%)

1トン未満	3 (12%)	4~6トン	5 (19%)
1~2トン	9 (35%)	6~8トン	3 (12%)
2~4トン	5 (19%)	その他	1 (4%)

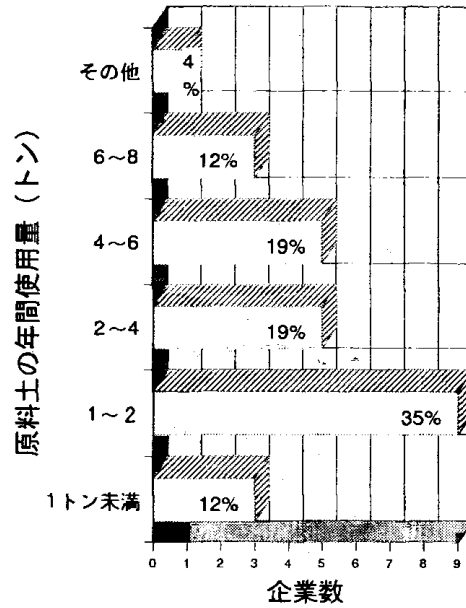


図2-2 原料土の年間使用量

(2) 使用原料について

① 原料土の入手先 (回答数57; 複数回答)

滋賀県	11 (19%)
栃木県	9 (16%)
愛知県	7 (12%)
岐阜県	4 (7%)
京都府	4 (7%)
岡山県	1 (2%)
岩手県	21 (37%)

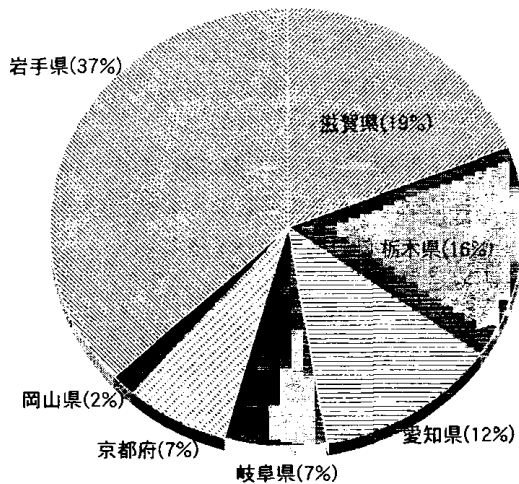


図2-1 原料土入手先

③ 原料土の入手状況 (回答数32; 91%)

非常に容易	7 (23%)
容易	12 (37%)
どちらでもない	8 (27%)
困難	3 (10%)
非常に困難	1 (3%)

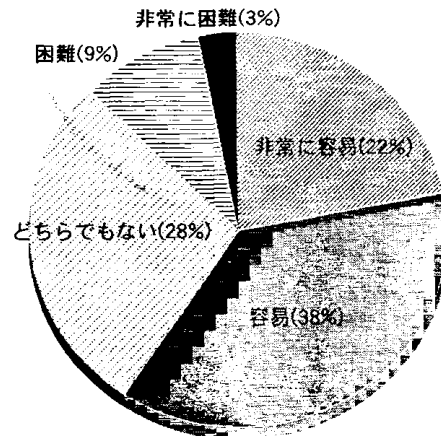


図2-3 原料土の入手状況

④ 新しい原料土への挑戦 (回答数32; 回答率91%)

すでに挑戦している	9 (28%)
今後挑戦したい	15 (47%)
どちらでもない	8 (19%)
挑戦したくない	1 (3%)

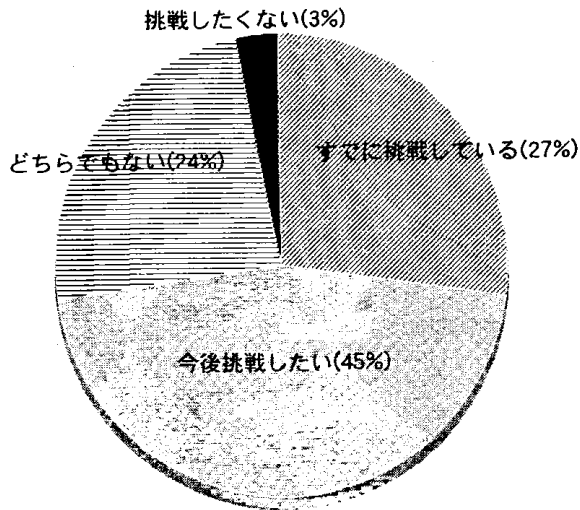


図2-4 新しい原料土への挑戦について

- ⑤ 県内原料土の使用について(回答数32; 回答率91%)
- すでに使用している 15 (44%)
  - 今後使用したい 16 (47%)
  - どちらでもない 2 (6%)
  - 使用したくない 1 (3%)

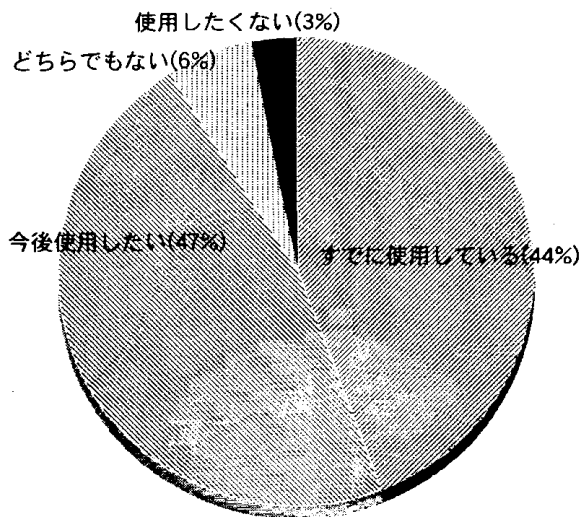


図2-5 県内原料土の使用について

(3) 岩手県工業技術センターに対する要望

- ① 陶磁器原料一般について要望がありますか。(回答数32; 回答率 91%)

ある 15 (47%)  
ない 17 (53%)

- ※「ある」と答えたものの内容は、
- 価格、性状などの情報が欲しい
  - 県内の産出地が知りたい
  - 原料の斡旋

- ② 制作技術について要望がありますか。(回答数32; 回答率 91%)

ある 11 (34%)  
ない 21 (66%)

- ※「ある」と答えたものの内容は、
- 新しい技術や特殊な技術について
  - ろくろ技術について
  - 研修会を開催してほしい

- ③ 試験・研究について要望がありますか。(回答数30; 回答率 86%)

ある 15 (50%)  
ない 15 (50%)

- ※「ある」と答えたものの内容は、
- 焼成試験
  - 発色試験
  - 耐火度試験
  - 講演会の開催
  - 一度作った釉の再現
  - 各種化学成分分析
  - 研究結果の定期的な発表

- ④ 技術データについて要望がありますか。(回答数31; 回答率 89%)

ある 17 (59%)  
ない 14 (41%)

- ※「ある」と答えたものの内容は、
- 県産粘土鉱物の組成・性状データの公開
  - 専門誌の発行
  - 新しい釉薬情報の配布

- ⑤ その他

- 試験機器を揃えて欲しい
- 特殊な技術を教えて欲しい
- 講演会・研修会を頻繁に開いて欲しい
- 業界の情報交換の場になって欲しい
- 情報の発信基地になって欲しい
- 訪問指導して欲しい
- 新しい釉薬の情報が欲しい
- 県内及び近県の原料人手先を紹介して欲しい
- 県内粘土の分布図を作成して欲しい  
(採掘可能かどうかも含めて)

### 3. 調査総括

岩手県内には40に及ぶ陶磁器製造業者（工房）が存在する。その60%は30代、40代のいわゆる若手と呼ばれる年代で構成されており、将来発展の可能性を秘めている。開業（開窯）も比較的最近であり、昭和40年以降の開窯が9割以上である。その他の2軒（6%）は

小久慈焼 … 文化5年（江戸時代）

台焼 … 明治28年

である。

しかしながら、約9割が個人経営による工房である。

個人経営以外の有限会社、組合、株式会社、町営はそれぞれ以下のようになっている。

有限会社 … 台焼（台特殊窯業有限会社）

組 合 … 小久慈焼（小久慈焼企業組合）

株式会社 … うれら焼（日本粘土株式会社）

町 営 … 東稲焼（東山町ふるさとセンター）

また、昨今の陶芸ブームからか陶芸教室を定期的に行っているところも多く、その割合は5割を越えている。不定期に受け入れられる人や他の陶芸教室（カルチャーセンター、老人ホームなど）、観光客（盛岡手作り村では年間約1,500～2,000人をうけいれている）を考えると陶芸人口はかなりの数にのぼるものと思われる。

陶磁器製造業界にもさまざまな団体が存在しているが、団体への所属はほぼ半数。しかし、それぞれが別個の団体に所属している。組合的な組織になっていないため公的なサポートが受けにくい状態にある。

（内訳）複数所属を含む … 計26

岩手工芸美術協会	10
岩手陶芸会	5
岩手クラフト協会	2
現代工芸岩手会	1
藤沢町設たかほく陶芸愛好会	1
日本工芸会	3
日本現代工芸美術協会	3
日本民芸協会	1

研修・修行先については、ほぼ9割が県外で行われている。愛知県、栃木県、佐賀県などの大生産地での研修・修行が60%以上を占めているが、これらの地域では公的、私的な研修機関が県内と比較にならないほど充実しており、後継者の育成に力を入れているため当然の結果であると考えられる。

岩手県内からの原料土の入手割合は37%であるが、これは複数回答を含む数字である。実際に、県内の土だけで制作している割合は3割に満たない。大半の企業は他県から整土されたものを入手し、そのまままたはブレンドして使用している。移入原料の場合、整土してあるためそのまま使用できる。土作りに時間を取られずに制作

できるが、移送にコストが掛かる。

また、岩手県内の原料利用割合が低い理由の一つには組成や物性が不明確であるという点も挙げられる。勝手を知っている（研修・修行地で使用した）原料のほうが焼成条件などの設定にとらわれずに制作に打ち込めるといった利点もある。

岩手県内の原料土のみを使用している割合

- 県産原料土のみ 9 (27%)
- 県産原料土移入原料 13 (39%)
- 移入原料のみ 11 (34%)

原料の入手状況は、非常に容易、容易をあわせると60%が苦勞なく原料土を入手できると答えているが、多分に「価格次第」という感がある。または、個人的つてがある（修行地など）場合もある。また、困難、非常に困難と答えた人でも「土の種類による」、「県内からの採取が困難」など限定された場合が多く、一般に市販されている原料土を用いる場合は「価格次第」で容易に入手できるようである。

新しい原料に対する興味および挑戦の意欲については、「すでに挑戦している」、「今後挑戦したい」をあわせると2/3は新しい原料土を用いた製品をつくりだして行きたいという姿勢が見られる。「どちらでもない」、「挑戦したくない」と答えた企業はすでに“定番”を持っているためである。

県産原料の使用について、すでに使用している」、「今後使用したい」をあわせると91%は県産原料を用いた製品をつくってみたいという意識がかいま見られる。「今後使用したい」と答えたなかには、「価格の折り合いと安定した供給が得られれば」、「詳細なデータがあれば」などの注文もついていた。

製造業者自身には県産原料を積極的に利用して行きたい意志はあるが、あらゆる面での情報網および必要施設設備の整備不足が現状である。

### 要 約

岩手県内の陶磁器製造業者の現状をアンケートにより調査した。県内には40の対象業者が存在し、代表者の年齢構成は30代から50代が全体の89%を占めている。また、9割が個人経営である。原料の60%以上は、信楽（滋賀県）、益子（栃木県）、瀬戸（愛知県）などの陶磁器製造では有名な県外から移入されているのが現状である。

キーワード：陶磁器 アンケート 岩手

### 参考文献

- (1) 総務庁，日本標準産業分類，平成5年10月改訂

(2) 岩手県企画調整部 統計調査課, 平成5年 工業統計結果報告書

5. 付 録  
岩手県陶磁器製造業地図

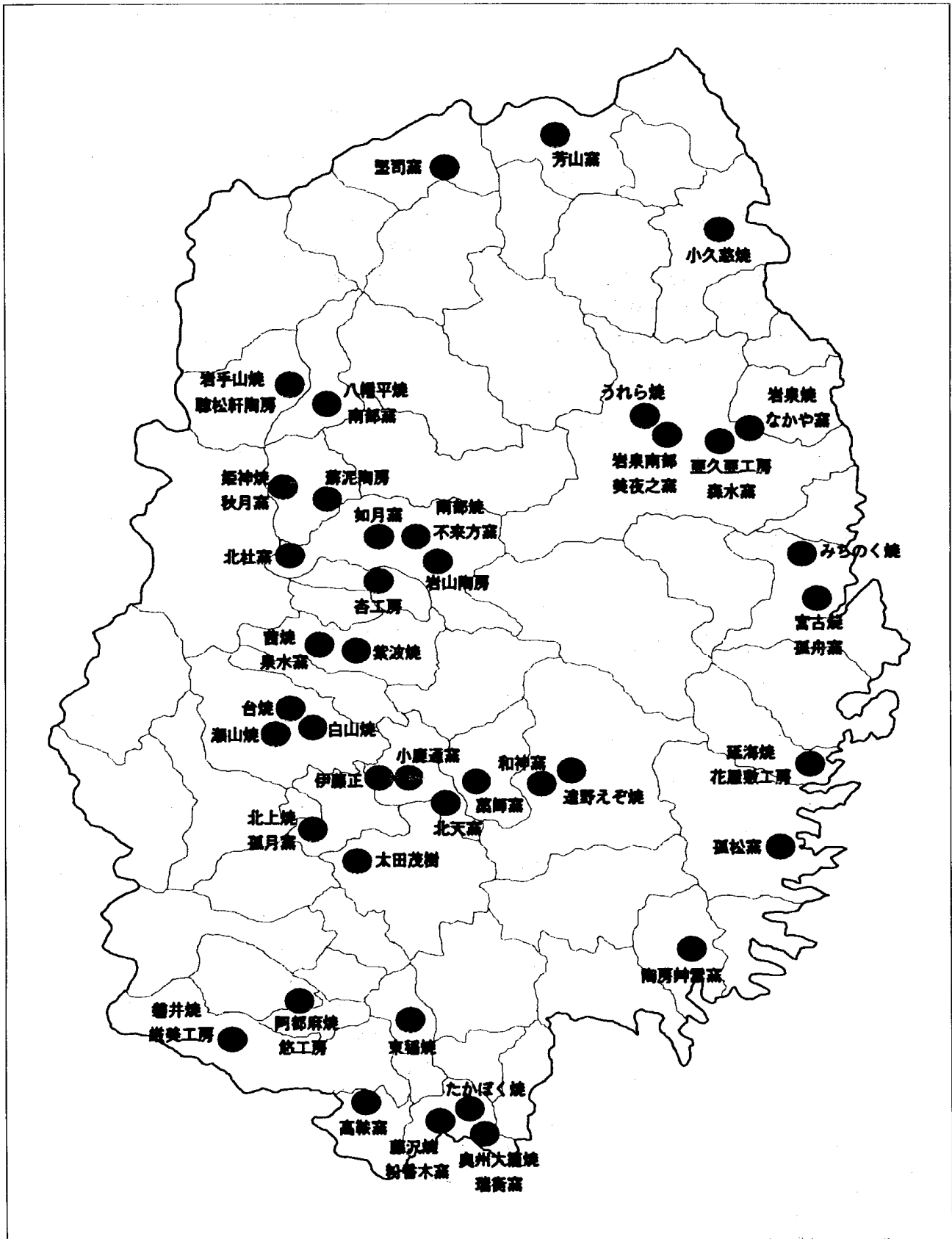


図3 岩手県陶磁器製造企業地図